

地域環境問題への取組み

生物多様性の保全

発電所の建設計画から操業まで事業活動を通じて、希少種をはじめとした動植物の生息・生育環境や生態系の保全に努めています。

大間原子力建設所（青森県）では、絶滅危惧Ⅱ類に分類されるベニモンマダラ道南亜種の幼虫やサナギを工事区域外に移したり、両生類の生育に適した池沼の造成、外来種の駆除などに取り組んでいます。



写真：ベニモンマダラ道南亜種の幼虫
（絶滅危惧Ⅱ類）



写真：外来種（アメリカオニアザミ）

このほか、水力発電所周辺の社有林の保全、林地残材等をバイオマス燃料へ加工（火力発電所で燃焼）し、森林保全とCO₂排出低減へ貢献しています。

水環境の保全

水力発電所では濁水長期化軽減対策や堆積土砂対策など、火力発電所では関係法令や自治体との環境保全協定に即した排水水の管理など、各事業所で地域環境に則した水環境の保全に取り組んでいます。

水リスクの評価

WRI Aqueduct(3.0)を用いて、J-POWERおよび連結子会社の発電所について“水ストレス”を評価した結果、国内では、水ストレスの高い地点はありません（最高「Medium-high」）。

海外では、タイ国内における判定が「Medium-high」から「Extremely high」となりました。水ストレスが高い地点もあることから、処理排水を再利用したり、貯水池を設置するなど各地点の環境に合わせ取水量/消費量の削減および操業リスクの低減に取り組んでいます。